

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	アルスコンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 郷学舎

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業	AIシステム科 (AIエンジニアコース)	夜・通信	864	160	
	情報システム科 (システム開発コース)	夜・通信	1,680	160	
	情報システム科 (ゲームクリエイターコース)	夜・通信	1,184	160	
	情報システム科 (プロダクトデザイナー・CADコース)	夜・通信	1,632	160	
	情報システム科 (ビジュアルデザイナーコース)	夜・通信	1,584	160	
	IT総合研究科 (IT総合研究コース)	夜・通信	704	80	
商業実務	情報ビジネス科 (情報ビジネスコース)	夜・通信	1,088	160	
	情報ビジネス科 (保健・医療ビジネスコース)	夜・通信	936	160	
	国際ITビジネス科 (国際ITビジネスコース)	夜・通信	0	80	※
教育・社会福祉	福祉保育科 (幼児保育コース)	夜・通信	1,776	240	
(備考) 国際ITビジネス科(国際ITビジネスコース)はR4年度募集停止で在校生0名の為、実施授業時数0となります。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.arsnet.ac.jp/school/information.html>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 国際 IT ビジネス科 (国際 IT ビジネスコース)

(困難である理由)

R4 年度募集停止しており在校生 0 名で、実施授業時数 0 となる為。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	アルスコンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 郷学舎

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.arsnet.ac.jp/school/information.html>

学校基本情報を参照

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	医療法人理事長・院長	2021年4月 1日～2024 年3月31日	組織運営体制のチ ェック機能
非常勤	会社員（情報システム関 連）	2021年4月 1日～2024 年3月31日	産学連携および実 践教育のチェック 機能
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	アルスコンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 郷学舎

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本校の授業計画(シラバス)は、教育課程改善委員会(毎年10月、2月実施:各分野の学外有識者による業界動向の確認)やカリキュラム編成委員会(毎年11月実施:各関連業界の動向を踏まえた上で本校教育理念、教育方針に照らし合わせてカリキュラム編成を行う)等を通じて検討した方針のもと、学科長と教科担当者が詳細を作成する。シラバスは本校規定に基づき定められた『シラバス作成に関するガイドライン』に準じて共通フォーマットで作成されており、3月に最終確定し、4月に学校HPにて公表している。シラバスには授業科目の基礎情報、担当教員、授業概要、到達目標、授業計画、教材名、成績評価(成績評価の方法、評価配分の割合)、履修にあたっての留意点等が記載されている</p>	
授業計画書の公表方法	<p>学校HP→学校情報公開</p> <p>https://www.arsnet.ac.jp/school/information.html</p>

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修成果の判定や成績評価の方法、評価基準についてはあらかじめ下記の通り設定し、オリエンテーションや各授業開始前に学生へ文書（学生の手引き等）で周知している。</p> <p>学習成果は、①試験・検定、②提出物、③授業態度、④出席状況、⑤外部評価の5項目により判定し、評価点を算出している。各項目の評価割合は、授業の到達目標を勘案して各教科担当者が決定し、シラバスに記載している。</p> <p>成績評価は、評価点に応じて、A評価～E評価の5段階で行われ、A～D評価までを単位認定する。（評価点 100～90点：A、89～80点：B、79～70点：C、69～60点：D、59点以下：E）</p> <p>出席率が3分の2未満の者は、評価点に関らず原則として単位修得を認めない。</p> <p>また、評価基準（A～E）については以下のように定めている。</p> <p>A：到達目標を達成しきわめて優秀な成績をおさめている</p> <p>B：到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている</p> <p>C：到達目標を達成している</p> <p>D：到達目標を最低限達成している</p> <p>E：到達目標を達成していない 出席率が3分の2未満である</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>教科の成績評価（A評価～E評価）に対して（GP）グレードポイント（A=4、B=3、C=2、D=1、E=0）を付与し、成績評価平均点（GPA）を算出する事で、個人ごとにクラス内の相対位置を把握している。</p> <p>GPAの算出方法については『学生の手引き』に記載し、授業開始前までに全学生に周知している他、学校ホームページにて公表を行っている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>学校 HP→学校情報公開 https://www.arsnet.ac.jp/school/information.html</p>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校の卒業要件は学則第 19 条に定められている。また、各学科・コースではディプロマポリシーが定められ、『学生の手引き』に記載し学生に周知する他、学校ホームページでも公開している。ディプロマポリシーは教育課程改善委員会やカリキュラム編成委員会での意見を踏まえ、各学科コースの責任者と教務課長が原案を作成する。この原案を基に理事長、校長、副校長、教務課長が最終的なディプロマポリシーを策定している。

卒業認定のプロセスは、学年末試験後に行われる成績会議において卒業要件を満たしている者に対し、最終認定を校長が行う事としている。

卒業認定方針については、学生の手引きに記載し学生に周知している。

各コースのディプロマポリシーは以下の通り。

●AI エンジニアコース

AI エンジニアコースでは、AI 利活用によって新たな事業やサービスを創出し、時代をリードする、AI、IoT、ビッグデータに関するテクノロジー(技術)・メソッド(手段)・ヒューマンスキルを備えた AI エンジニアなどの AI 技術者を育成する。そのため、卒業認定にあたっては本校学則 19 条の要件並びに以下の点に到達していることを目標とする。

1. AI エンジニアとして必要なコンピュータに関する知識と利活用技術を習得している。
2. 基礎的なプログラミング技術を習得している。
3. AI システムを構築するための知識と実装技術を習得している。
4. データサイエンスに関する知識を習得している。
5. 職業人として必要な責任感、誠実さ、協調性、柔軟性、倫理観を身に付けている。

●システム開発コース

システム開発コースでは、IT 利活用によって新たな事業やサービスを創出し、時代をリードする、IT に関するテクノロジー(技術)・メソッド(手段)・ヒューマンスキルを備えたシステムエンジニア、プログラマーなどの IT 技術者を育成する。そのため、卒業認定にあたっては本校学則 19 条の要件並びに以下の点に到達していることを目標とする。

1. 情報処理技術者として必要な基本的な知識と技術を習得している。
2. プログラム開発における多様な発想と表現方法を習得している。
3. システム開発における企画立案から設計および実装までの一連の作業工程の中で生じる課題を明確化し、解決策を構想する素地が出来ている。
4. システム開発に係る様々な技術要素に対し、自主的な研究を行うことが出来る。
5. 職業人として必要な責任感、誠実さ、協調性、柔軟性、倫理観を身に付けている。

●ゲームクリエイターコース

ゲームクリエイターコースでは、コンピュータゲーム産業の担い手となるべく、プログラム・CG・サウンド制作の技術と進捗管理などの管理能力を備え、企画から始まるゲーム制作全体像を把握したゲームプランナー、ゲームプログラマーなどのゲームクリエイターを育成する。そのため、卒業認定にあたっては本校学則19条の要件並びに以下の点に到達していることを目標とする。

1. ゲーム制作に必要な基本的なコンピュータ知識と開発技術を習得している。
2. ゲーム制作における企画立案・仕様設計ならびに個人制作・グループ制作の進捗管理を行う事が出来る。
3. ゲーム制作に係るグラフィックやサウンドに関する基本的な知識と技術を習得している。
4. 職業人として信頼される為に必要な責任感、誠実さ、協調性、柔軟性、倫理観を身に付けている。

●プロダクトデザイナー・CAD コース

プロダクトデザイナー・CAD コースでは「モノづくりに係る先端技術と設計」「社会環境と建築」「人とモノ」についての基礎知識を習得し、かつ社会性を持ち合わせた人材を育成する。そのため、卒業認定にあたっては本校学則19条の要件並びに以下の点に到達していることを目標とする。

1. 工業製品デザインの知識やその表現方法を習得している。
2. 機械・建築設計の基本的な知識・技術を習得している。
3. 設計・デザインについて効果的に伝えるプレゼンテーション能力を身に付けている。
4. 設計開発における一連の作業工程の中で生じる課題を明確化し、解決策を構想する素地が出来ている。
5. 職業人として信頼されるために必要な責任感、誠実さ、協調性、柔軟性、倫理観を身に付けている。

●ビジュアルデザイナーコース

ビジュアルデザイナーコースでは、多様化されたデジタルメディアに対応し、総合的グラフィックス技術を習得したデジタルコンテンツ業界で幅広く活躍するデザイナー及びクリエイターとなる人材を育成する。そのため、卒業認定にあたっては本校学則19条の要件並びに以下の点に到達していることを目標とする。

1. 2Dグラフィックスソフトの基本的な知識と操作技術を習得している。
2. 3Dグラフィックスソフトの基本的な知識と操作技術を習得している。
3. 動画制作・編集における基本的な知識と操作技術を習得している。
4. デジタルコンテンツ制作における企画立案から計画・制作・プレゼンまでの工程の中でのデザインの役割を理解している。
5. 職業人として信頼されるために必要な責任感、誠実さ、協調性、柔軟性、倫理観を身に付けている。

● I T 総合研究コース

IT 総合研究コースでは、各専攻分野における、難易度の高い実践的な技術を習得した即戦力となる人材を育成する。そのため、卒業認定にあたっては本校学則 19 条の要件並びに以下の点に到達していることを目標とする。

1. 情報セキュリティ専攻：情報セキュリティエンジニアとして必要な、ネットワークや情報セキュリティの知識・技術を習得している。
2. ゲーム開発専攻：ゲームクリエイターとして必要な、ゲームプログラミング技術や、ゲーム企画などの手法を習得している。
3. グラフィックス専攻：グラフィックデザイナーとして必要な、CG 制作技術や、デジタルによる多様な表現技術を習得している。

●情報ビジネスコース

情報ビジネスコースでは、一般事務、商品販売、営業、流通・倉庫関連業務、企画、製造、旅行・ホテル・ブライダル、福祉サービス、冠婚葬祭など様々な職業に共通するビジネススキルを持った人材を育成する。そのため、卒業認定にあたっては本校学則 19 条の要件ならびに以下の点について到達していることを目標とする。

1. ビジネスパーソンとして必要なビジネス知識を習得している。
2. IT 関連の知識と技術を習得している。
3. 多様な人々とともに協力し合いチームで働くための、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力を身に付けている。
4. 職業人として信頼されるために必要な責任感、誠実さ、協調性、柔軟性、倫理観を身に付けている。

●保健・医療ビジネスコース

保健・医療ビジネスコースでは、高度な専門知識を持ち、医療事務部門・看護部門・診療情報管理部門等で幅広く活躍できる医療事務スタッフを育成する。そのため、卒業認定にあたっては本校学則 19 条の要件ならびに以下の点について到達していることを目標とする。

1. 医療事務スタッフの職務を理解し、医療機関で活躍できる医療事務スタッフとして必要な医療の基礎知識と技能を習得している。
2. 医療機関の I C T 化に対応できる基本的なパソコン知識とアプリケーション利用技術を習得している。
3. 医療現場で必要なビジネス知識を習得し、コミュニケーション能力やホスピタリティマインドを身につけている。
4. 常に新しい知識や技能を吸収する向上心を持ち、自己研鑽できる。
5. チーム医療の一員として、連携・協働することのできる実践力を身につけている。

●国際ITビジネスコース

国際ITビジネスコースでは、国際交流を通じて、グローバル社会に対応できるバイリンガルなコミュニケーション能力と、ホスピタリティやIT活用能力を育成し、専門学校や4年制大学等への進学を目指す。そのため、卒業認定にあたっては本校学則19条の要件ならびに以下の点について到達していることを目標とする。

1. 日本文化に関心を持ち、適応する能力を習得している。
2. ITに関する基本的な知識・技術を習得している。
3. ビジネスに関する基本的なマーケティング技法、経理の知識を習得している。
4. 日本での生活やビジネスシーンにおける基本的なホスピタリティ能力やマナーを身に付けている。
5. 職業人として信頼されるために必要な責任感、誠実さ、協調性、柔軟性、倫理観の素地を身に付けている。
6. 自身の進路について、目標とする業種職種が明確であり専攻科目に対して理解している。

●幼児保育コース

幼児保育コースでは、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、社会福祉主事（任用）資格の取得を目指し、近畿大学九州短期大学通信教育部保育科との併修により、短期大学士（短大）の資格を同時取得する。人間性豊かな幼児教育者を目指し、幼児教育者としての専門知識・技術を身に付け、さらに情報処理技術や知識、情報モラルを備えた幼児教育者を育成する。そのため、卒業認定にあたっては本校学則19条の要件ならびに以下の点について到達していることを目標とする。

1. 知識・技能
 - ① 社会人として、人文・社会・自然の各分野に関する最低限の基礎的知識を習得している。
 - ② 保育者として必要な専門的知識・技能について理解し、習得している。
 - ③ 子どもの心身の成長・心理的および身体的発達について理解している。
2. 思考力・判断力・表現力
 - ① 幼児教育の現場や子育て支援の場での保育をとりまく様々な課題に関心を持ち、保育者としての役割を理解する。
 - ② 保育内容を踏まえ、適切な遊びを提供でき、のびのびとした表現活動を実現できる保育技術を習得している。
 - ③ 学修成果を統合して、想像的かつ創造的に保育へ応用できる能力を有している。
3. 協働性・人間性
 - ① 建学の精神を踏まえ、保育者として人に愛され、信頼され、尊敬されるよう倫理観・使命感・責任感に基づき行動することができる。
 - ② 保育者として、子どもや保護者などとの確かなコミュニケーション能力を有し、他者と協働することができる。
 - ③ 地域社会や家庭に積極的に奉仕し、貢献しようとする意欲を有している。
 - ④ 子どもや関係者の最善の利益を尊重できる。

*学則第 19 条は以下の通り。

第 19 条【卒業】

1. 本校所定の修業年限 2 年の課程を終了し、学習評価の上、下記の条件を満たした者には、卒業証書(別紙様式)ならびに専門士称号(別紙様式)を授与する。
 - (1)原則として卒業基準検定を 2 つ以上取得していること。
 - (2)原則として、必修科目をすべて単位修得していること。
 - (3) 2 年間以上在学し、107 単位以上を修得していること。
2. 本校所定の修業年限 1 年の課程を終了し、学習評価の上、下記の条件を満たした者には、卒業証書(別紙様式)を授与する。
 - (1)原則として、必修科目をすべて単位修得していること。
 - (2) 1 年間以上在学し、50 単位以上を修得していること。
3. 本校所定の修業年限 3 年の課程を修了し、学習評価の上、下記の条件を満たした者には、卒業証書(別紙様式)ならびに専門士称号(別紙様式)を授与する。
 - (1)原則として、必修科目をすべて単位修得していること。
 - (2) 3 年間以上在学し、157 単位以上を修得していること。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

学校 HP→学校情報公開

<https://www.arsnet.ac.jp/school/information.html>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	アルスコンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 郷学舎

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校 HP→学校情報公開 https://www.arsnet.ac.jp/school/information.html
収支計算書又は損益計算書	学校 HP→学校情報公開 https://www.arsnet.ac.jp/school/information.html
財産目録	学校 HP→学校情報公開 https://www.arsnet.ac.jp/school/information.html
事業報告書	学校 HP→学校情報公開 https://www.arsnet.ac.jp/school/information.html
監事による監査報告（書）	学校 HP→学校情報公開 https://www.arsnet.ac.jp/school/information.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	AI システム科 (AI エンジニアコース)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,712 単位時間	512 単位時間	32 単位時間	416 単位時間	単位時間	単位時間
			960 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		13人	0人	1人	2人	3人	
カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）							
<p>（概要）</p> <p>本校の授業計画（シラバス）は、教育課程改善委員会（毎年10月、2月実施：各分野の学外有識者による業界動向の確認）やカリキュラム編成委員会（毎年11月実施：各関連業界の動向を踏まえた上で本校教育理念、教育方針に照らし合わせてカリキュラム編成を行う）等を通じて検討した方針のもと、学科長と教科担当者が詳細を作成する。シラバスは本校規定に基づき定められた『シラバス作成に関するガイドライン』に準じて共通フォーマットで作成されており、3月に最終確定し、4月に学校HPにて公表している。シラバスには授業科目の基礎情報、担当教員、授業概要、到達目標、授業計画、教材名、成績評価（成績評価の方法、評価配分の割合）、履修にあたっての留意点等が記載されている。</p>							

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>学習成果は、①試験・検定、②提出物、③授業態度、④出席状況、⑤外部評価の5項目により判定し、評価点を算出している。各項目の評価割合は、授業の到達目標を勘案して各教科担当者が決定し、シラバスに記載している。</p> <p>成績評価は、評価点に応じて、A評価～E評価の5段階で行われ、A～D評価までを単位認定する。(評価点100～90点:A、89～80点:B、79～70点:C、69～60点:D、59点以下:E)</p> <p>出席率が3分の2未満の者は、評価点に関らず原則として単位修得を認めない。</p> <p>各教科の成績評価(A評価～E評価)に対して(GP)グレードポイント(A=4、B=3、C=2、D=1、E=0)を付与し、成績評価平均点(GPA)を算出する事で、個人ごとにクラス内の相対位置を把握している。</p> <p>GPAの算出方法については『学生の手引き』に記載し全学生に周知している他、学校ホームページにて公開を行っている</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>本校の卒業要件は学則第19条に定められている。また、各学科・コースではディプロマポリシーが定められ、『学生の手引き』に記載し学生に周知する他、学校ホームページでも公開している。ディプロマポリシーは教育課程改善委員会やカリキュラム編成委員会での意見を踏まえ、各学科コースの責任者と教務部課長が原案を作成する。この原案を基に理事長、校長、副校長、教務部課長が最終的なディプロマポリシーを策定している。</p> <p>卒業認定のプロセスは、学年末試験後に行われる成績会議において卒業要件を満たしている者に対し、最終認定を校長が行う事としている。</p> <p>卒業認定方針については、学生の手引きに記載し学生に周知している。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次前期に個人面談を行い、入学後1ヶ月位の段階での意識を確認する。 ・教員及び学生の空きコマ、放課後を利用して補講を行い学習の定着化をしている。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考)(任意記載事項) R4新設の学科の為、1年生のみ在籍			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム科 (システム開発コース)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,712 単位時間	632 単位時間	176 単位時間	1,152 単位時間		
			1,960 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	78人	5人	3人	4人	7人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 本校の授業計画 (シラバス) は、教育課程改善委員会 (毎年 10 月、2 月実施：各分野の学外有識者による業界動向の確認) やカリキュラム編成委員会 (毎年 11 月実施：各関連業界の動向を踏まえた上で本校教育理念、教育方針に照らし合わせてカリキュラム編成を行う) 等を通じて検討した方針のもと、学科長と教科担当者が詳細を作成する。シラバスは本校規定に基づき定められた『シラバス作成に関するガイドライン』に準じて共通フォーマットで作成されており、3 月に最終確定し、4 月に学校 HP にて公表している。シラバスには授業科目の基礎情報、担当教員、授業概要、到達目標、授業計画、教材名、成績評価 (成績評価の方法、評価配分の割合)、履修にあたっての留意点等が記載されている
成績評価の基準・方法
(概要) 学習成果は、①試験・検定、②提出物、③授業態度、④出席状況、⑤外部評価の 5 項目により判定し、評価点を算出している。各項目の評価割合は、授業の到達目標を勘案して各教科担当者が決定し、シラバスに記載している。 成績評価は、評価点に応じて、A 評価～E 評価の 5 段階で行われ、A～D 評価までを単位認定する。(評価点 100～90 点：A、89～80 点：B、79～70 点：C、69～60 点：D、59 点以下：E) 出席率が 3 分の 2 未満の者は、評価点に関らず原則として単位修得を認めない。 各教科の成績評価 (A 評価～E 評価) に対して (GP) グレードポイント (A=4、B=3、C=2、D=1、E=0) を付与し、成績評価平均点 (GPA) を算出する事で、個人ごとにクラス内の相対位置を把握している。 GPA の算出方法については『学生の手引き』に記載し全学生に周知している他、学校ホームページにて公開を行っている

卒業・進級の認定基準
(概要) 本校の卒業要件は学則第 19 条に定められている。また、各学科・コースではディプロマポリシーが定められ、『学生の手引き』に記載し学生に周知する他、学校ホームページでも公開している。ディプロマポリシーは教育課程改善委員会やカリキュラム編成委員会での意見を踏まえ、各学科コースの責任者と教務部課長が原案を作成する。この原案を基に理事長、校長、副校長、教務部課長が最終的なディプロマポリシーを策定している。卒業認定のプロセスは、学年末試験後に行われる成績会議において卒業要件を満たしている者に対し、最終認定を校長が行う事としている。卒業認定方針については、学生の手引きに記載し学生に周知している。
学修支援等
(概要) ・ 国家試験等検定対策特別授業 ・ スマートフォンアプリ制作指導 ・ 個々の学習進捗に合わせて個人面接

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
37 人 (100%)	0 人 (0%)	36 人 (97.3%)	1 人 (2.7%)
(主な就職、業界等) ソフトウェア開発業界など			
(就職指導内容) 自己分析・業界指導や採用試験対策のための、Web 面接対策や試験対策授業			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 基本情報技術者試験・情報セキュリティマネジメント試験・情報処理技術者能力認定試験・CompTIA IT Fundamentals+ など			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
91 人	9 人	9.9%
(中途退学の主な理由) 進路変更、心神耗弱、疾患、経済的困窮		
(中退防止・中退者支援のための取組) 退学防止会議を定期的実施し、個々の学生状況の把握を行い 2 者面談 3 者面談によりきめ細かい対応を図っている		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム科 (ゲームクリエイターコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,712 単位時間	464 単位時間	0 単位時間	1712 単位時間		
			2,176 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	55人	0人	1人	4人	5人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 本校の授業計画 (シラバス) は、教育課程改善委員会 (毎年 10 月、2 月実施：各分野の学外有識者による業界動向の確認) やカリキュラム編成委員会 (毎年 11 月実施：各関連業界の動向を踏まえた上で本校教育理念、教育方針に照らし合わせてカリキュラム編成を行う) 等を通じて検討した方針のもと、学科長と教科担当者が詳細を作成する。シラバスは本校規定に基づき定められた『シラバス作成に関するガイドライン』に準じて共通フォーマットで作成されており、3 月に最終確定し、4 月に学校 HP にて公表している。シラバスには授業科目の基礎情報、担当教員、授業概要、到達目標、授業計画、教材名、成績評価 (成績評価の方法、評価配分の割合)、履修にあたっての留意点等が記載されている
成績評価の基準・方法
(概要) 学習成果は、①試験・検定、②提出物、③授業態度、④出席状況、⑤外部評価の 5 項目により判定し、評価点を算出している。各項目の評価割合は、授業の到達目標を勘案して各教科担当者が決定し、シラバスに記載している。 成績評価は、評価点に応じて、A 評価～E 評価の 5 段階で行われ、A～D 評価までを単位認定する。(評価点 100～90 点：A、89～80 点：B、79～70 点：C、69～60 点：D、59 点以下：E) 出席率が 3 分の 2 未満の者は、評価点に関らず原則として単位修得を認めない。 各教科の成績評価 (A 評価～E 評価) に対して (GP) グレードポイント (A=4、B=3、C=2、D=1、E=0) を付与し、成績評価平均点 (GPA) を算出する事で、個人ごとにクラス内の相対位置を把握している。 GPA の算出方法については『学生の手引き』に記載し全学生に周知している他、学校ホームページにて公開を行っている
卒業・進級の認定基準
(概要) 本校の卒業要件は学則第 19 条に定められている。また、各学科・コースではディプロマポリシーが定められ、『学生の手引き』に記載し学生に周知する他、学校ホームページでも公開している。ディプロマポリシーは教育課程改善委員会やカリキュラム編成委員会での意見を踏まえ、各学科コースの責任者と教務部課長が原案を作成する。この原案を基に理事長、校長、副校長、教務部課長が最終的なディプロマポリシーを策定している。 卒業認定のプロセスは、学年末試験後に行われる成績会議において卒業要件を満たしている者に対し、最終認定を校長が行う事としている。 卒業認定方針については、学生の手引きに記載し学生に周知している。

学修支援等
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・1年次前期に個人面談を行い、入学後1ヶ月位の段階での意識を確認する。 ・1年次後期に三者面談を行い、保護者との情報共有を行なう

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
25人 (100%)	4人 (16%)	15人 (60%)	6人 (24%)
(主な就職、業界等) ゲーム会社・ソフトウェア開発業界など			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> ・週に1コマある「キャリアデザイン」の授業の中で、職業についての知識や、自身の適性の確認などを行なう ・1年次後期に、学年全体を対象に就職強化週間を行い、就職活動への基礎知識や準備を行う ・2年次進級前の長期休み中に、学年全体を対象に就職強化週間を行い、就職活動の実践的な知識を学ぶ ・書類提出前の添削指導や、面接試験前の面接練習など、必要に応じて個別指導を行なう 			
(主な学修成果(資格・検定等)) 情報検定情報活用試験・マルチメディア検定・サーティファイ表計算技能検定・ゲーム大賞アマチュア部門応募・U-22プログラミングコンテスト応募			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
61人	7人	11.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、心神耗弱、疾患、経済的困窮		
(中退防止・中退者支援のための取組) 退学防止会議を定期的実施し、個々の学生状況の把握を行い2者面談3者面談によりきめ細かい対応を図っている		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム科 (プロダクトデザイナー・CADコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,712 単位時間	608 単位時間	0 単位時間	1376 単位時間		
			1,984 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	34人	2人	1人	3人	4人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 本校の授業計画 (シラバス) は、教育課程改善委員会 (毎年 10 月、2 月実施: 各分野の学外有識者による業界動向の確認) やカリキュラム編成委員会 (毎年 11 月実施: 各関連業界の動向を踏まえた上で本校教育理念、教育方針に照らし合わせてカリキュラム編成を行う) 等を通じて検討した方針のもと、学科長と教科担当者が詳細を作成する。シラバスは本校規定に基づき定められた『シラバス作成に関するガイドライン』に準じて共通フォーマットで作成されており、3 月に最終確定し、4 月に学校 HP にて公表している。シラバスには授業科目の基礎情報、担当教員、授業概要、到達目標、授業計画、教材名、成績評価 (成績評価の方法、評価配分の割合)、履修にあたっての留意点等が記載されている
成績評価の基準・方法
(概要) 学習成果は、①試験・検定、②提出物、③授業態度、④出席状況、⑤外部評価の 5 項目により判定し、評価点を算出している。各項目の評価割合は、授業の到達目標を勘案して各教科担当者が決定し、シラバスに記載している。 成績評価は、評価点に応じて、A 評価～E 評価の 5 段階で行われ、A～D 評価までを単位認定する。(評価点 100～90 点: A、89～80 点: B、79～70 点: C、69～60 点: D、59 点以下: E) 出席率が 3 分の 2 未満の者は、評価点に関らず原則として単位修得を認めない。 各教科の成績評価 (A 評価～E 評価) に対して (GP) グレードポイント (A=4、B=3、C=2、D=1、E=0) を付与し、成績評価平均点 (GPA) を算出する事で、個人ごとにクラス内の相対位置を把握している。 GPA の算出方法については『学生の手引き』に記載し全学生に周知している他、学校ホームページにて公開を行っている
卒業・進級の認定基準
(概要) 本校の卒業要件は学則第 19 条に定められている。また、各学科・コースではディプロマポリシーが定められ、『学生の手引き』に記載し学生に周知する他、学校ホームページでも公開している。ディプロマポリシーは教育課程改善委員会やカリキュラム編成委員会での意見を踏まえ、各学科コースの責任者と教務部課長が原案を作成する。この原案を基に理事長、校長、副校長、教務部課長が最終的なディプロマポリシーを策定している。 卒業認定のプロセスは、学年末試験後に行われる成績会議において卒業要件を満たしている者に対し、最終認定を校長が行う事としている。 卒業認定方針については、学生の手引きに記載し学生に周知している。

学修支援等
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・1年次前期に全員対象の個人面談を行い、入学後1ヶ月位の段階での意識を確認する。 ・1年次後期に全員対象の三者面談を行い、保護者との情報共有を行なう

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	0人 (0%)	17人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) CAD、設計業界			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> ・週に1コマある「キャリアデザイン」の授業の中で、職業についての知識や、自身の適性の確認などを行なう ・1年次後期に、学年全体を対象に就職強化週間を行い、就職活動への基礎知識や準備を行う ・2年次進級前の長期休み中に、学年全体を対象に就職強化週間を行い、就職活動の実践的な知識を学ぶ ・書類提出前の添削指導や、面接試験前の面接練習など、必要に応じて個別指導を行なう 			
(主な学修成果（資格・検定等）) CAD利用技術者試験・マルチメディア検定・プロダクトデザイン検定及びコンテスト			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 退学防止会議を定期的実施し、個々の学生状況の把握を行い2者面談3者面談によりきめ細かい対応を図っている		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	情報システム科 (ビジュアルデザインコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,712 単位時間	528 単位時間	0 単位時間	1,408 単位時間		
			1,936 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	54人	0人	1人	5人	6人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>本校の授業計画（シラバス）は、教育課程改善委員会（毎年10月、2月実施：各分野の学外有識者による業界動向の確認）やカリキュラム編成委員会（毎年11月実施：各関連業界の動向を踏まえた上で本校教育理念、教育方針に照らし合わせてカリキュラム編成を行う）等を通じて検討した方針のもと、学科長と教科担当者が詳細を作成する。シラバスは本校規定に基づき定められた『シラバス作成に関するガイドライン』に準じて共通フォーマットで作成されており、3月に最終確定し、4月に学校HPにて公表している。シラバスには授業科目の基礎情報、担当教員、授業概要、到達目標、授業計画、教材名、成績評価（成績評価の方法、評価配分の割合）、履修にあたっての留意点等が記載されている</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学習成果は、①試験・検定、②提出物、③授業態度、④出席状況、⑤外部評価の5項目により判定し、評価点を算出している。各項目の評価割合は、授業の到達目標を勘案して各教科担当者が決定し、シラバスに記載している。</p> <p>成績評価は、評価点に応じて、A評価～E評価の5段階で行われ、A～D評価までを単位認定する。（評価点100～90点：A、89～80点：B、79～70点：C、69～60点：D、59点以下：E）</p> <p>出席率が3分の2未満の者は、評価点に関らず原則として単位修得を認めない。</p> <p>各教科の成績評価（A評価～E評価）に対して（GP）グレードポイント（A=4、B=3、C=2、D=1、E=0）を付与し、成績評価平均点（GPA）を算出する事で、個人ごとにクラス内の相対位置を把握している。</p> <p>GPAの算出方法については『学生の手引き』に記載し全学生に周知している他、学校ホームページにて公開を行っている</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>本校の卒業要件は学則第19条に定められている。また、各学科・コースではディプロマポリシーが定められ、『学生の手引き』に記載し学生に周知する他、学校ホームページでも公開している。ディプロマポリシーは教育課程改善委員会やカリキュラム編成委員会での意見を踏まえ、各学科コースの責任者と教務部課長が原案を作成する。この原案を基に理事長、校長、副校長、教務部課長が最終的なディプロマポリシーを策定している。</p> <p>卒業認定のプロセスは、学年末試験後に行われる成績会議において卒業要件を満たしている者に対し、最終認定を校長が行う事としている。</p> <p>卒業認定方針については、学生の手引きに記載し学生に周知している。</p>

学修支援等
(概要) デザイン分野として、DTP、Web デザイン、映像、3DCG の4分野の授業を幅広く実施している。スムーズな学修実現のため、クラス内のコミュニケーションの活性化、過去の学生の作品データやポートフォリオデータなどの開示、放課後の教室開放・指導などを行っている。コンテストへの積極的な応募を促し、入賞へ向けた指導も行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
24人 (100%)	0人 (0%)	23人 (95.8%)	1人 (4.2%)
(主な就職、業界等) 広告代理店、デザイン会社、印刷会社、EC サイト運営会社など。			
(就職指導内容) 筆記試験対策、面接対策、作品指導、求人票などの企業情報の提供および斡旋、個別指導。			
(主な学修成果 (資格・検定等)) CG-ARTS 主催 CG クリエイター検定、CG-ARTS 主催マルチメディア検定、CG-ARTS 主催 Web デザイナー検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
50人	3人	6.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 退学防止会議を定期的実施し、個々の学生状況の把握を行い 2 者面談 3 者面談によりきめ細かい対応を図っている		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	IT 総合研究科 (IT 総合研究コース)					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	800 単位時間	64 単位時間	64 単位時間	752 単位時間		
			880 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
10人	4人	0人	1人	1人	2人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 本校の授業計画 (シラバス) は、教育課程改善委員会 (毎年 10 月、2 月実施：各分野の学外有識者による業界動向の確認) やカリキュラム編成委員会 (毎年 11 月実施：各関連業界の動向を踏まえた上で本校教育理念、教育方針に照らし合わせてカリキュラム編成を行う) 等を通じて検討した方針のもと、学科長と教科担当者が詳細を作成する。シラバスは本校規定に基づき定められた『シラバス作成に関するガイドライン』に準じて共通フォーマットで作成されており、3 月に最終確定し、4 月に学校 HP にて公表している。シラバスには授業科目の基礎情報、担当教員、授業概要、到達目標、授業計画、教材名、成績評価 (成績評価の方法、評価配分の割合)、履修にあたっての留意点等が記載されている
成績評価の基準・方法
(概要) 学習成果は、①試験・検定、②提出物、③授業態度、④出席状況、⑤外部評価の 5 項目により判定し、評価点を算出している。各項目の評価割合は、授業の到達目標を勘案して各教科担当者が決定し、シラバスに記載している。 成績評価は、評価点に応じて、A 評価～E 評価の 5 段階で行われ、A～D 評価までを単位認定する。(評価点 100～90 点：A、89～80 点：B、79～70 点：C、69～60 点：D、59 点以下：E) 出席率が 3 分の 2 未満の者は、評価点に関らず原則として単位修得を認めない。 各教科の成績評価 (A 評価～E 評価) に対して (GP) グレードポイント (A=4、B=3、C=2、D=1、E=0) を付与し、成績評価平均点 (GPA) を算出する事で、個人ごとにクラス内の相対位置を把握している。 GPA の算出方法については『学生の手引き』に記載し全学生に周知している他、学校ホームページにて公開を行っている
卒業・進級の認定基準
(概要) 本校の卒業要件は学則第 19 条に定められている。また、各学科・コースではディプロマポリシーが定められ、『学生の手引き』に記載し学生に周知する他、学校ホームページでも公開している。ディプロマポリシーは教育課程改善委員会やカリキュラム編成委員会での意見を踏まえ、各学科コースの責任者と教務部課長が原案を作成する。この原案を基に理事長、校長、副校長、教務部課長が最終的なディプロマポリシーを策定している。 卒業認定のプロセスは、学年末試験後に行われる成績会議において卒業要件を満たしている者に対し、最終認定を校長が行う事としている。 卒業認定方針については、学生の手引きに記載し学生に周知している。

学修支援等 (概要) 個々の学習進捗に合わせて個人面接を行っている

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
1人 (100%)	0人 (0%)	1人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) ソフトウェア開発			
(就職指導内容) ・週に1コマある「キャリアデザイン」の授業の中で、自己分析・業界知識指導、エントリーシート作成対策、応募作品添付書類作成、模擬面接など			
(主な学修成果(資格・検定等)) U-22 プログラミングコンテスト応募 在学時の作品を、卒業後に開催される 2022 東京ゲームショーへ出展予定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 退学防止会議を定期的実施し、個々の学生状況の把握を行い2者面談3者面談によりきめ細かい対応を図っている		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務 専門課程	情報ビジネス科 (情報ビジネスコース)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,712 単位時間	960 単位時間	328 単位時間	736 単位時間	単位時間	単位時間
		2,024 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	46人	4人	2人	2人	4人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要） 本校の授業計画（シラバス）は、教育課程改善委員会（毎年10月、2月実施：各分野の学外有識者による業界動向の確認）やカリキュラム編成委員会（毎年11月実施：各関連業界の動向を踏まえた上で本校教育理念、教育方針に照らし合わせてカリキュラム編成を行う）等を通じて検討した方針のもと、学科長と教科担当者が詳細を作成する。シラバスは本校規定に基づき定められた『シラバス作成に関するガイドライン』に準じて共通フォーマットで作成されており、3月に最終確定し、4月に学校HPにて公表している。シラバスには授業科目の基礎情報、担当教員、授業概要、到達目標、授業計画、教材名、成績評価（成績評価の方法、評価配分の割合）、履修にあたっての留意点等が記載されている			
成績評価の基準・方法			
（概要） 学習成果は、①試験・検定、②提出物、③授業態度、④出席状況、⑤外部評価の5項目により判定し、評価点を算出している。各項目の評価割合は、授業の到達目標を勘案して各教科担当者が決定し、シラバスに記載している。 成績評価は、評価点に応じて、A評価～E評価の5段階で行われ、A～D評価までを単位認定する。（評価点100～90点：A、89～80点：B、79～70点：C、69～60点：D、59点以下：E） 出席率が3分の2未満の者は、評価点に関らず原則として単位修得を認めない。 各教科の成績評価（A評価～E評価）に対して（GP）グレードポイント（A=4、B=3、C=2、D=1、E=0）を付与し、成績評価平均点（GPA）を算出する事で、個人ごとにクラス内の相対位置を把握している。 GPAの算出方法については『学生の手引き』に記載し全学生に周知している他、学校ホームページにて公開を行っている			
卒業・進級の認定基準			
（概要） 本校の卒業要件は学則第19条に定められている。また、各学科・コースではディプロマポリシーが定められ、『学生の手引き』に記載し学生に周知する他、学校ホームページでも公開している。ディプロマポリシーは教育課程改善委員会やカリキュラム編成委員会での意見を踏まえ、各学科コースの責任者と教務部課長が原案を作成する。この原案を基に理事長、校長、副校長、教務部課長が最終的なディプロマポリシーを策定している。 卒業認定のプロセスは、学年末試験後に行われる成績会議において卒業要件を満たしている者に対し、最終認定を校長が行う事としている。 卒業認定方針については、学生の手引きに記載し学生に周知している。			
学修支援等			
（概要） 担任、副担任、教科担当など学生に関わる教員で学生の変化はないか情報交換を行い、学生の状況に合わせて指導や、個別相談に対応している。			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21人 (100%)	0人 (0%)	21人 (100%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等) IT 業界、メーカー、不動産、印刷、食品、販売、物流、冠婚葬祭 など
(就職指導内容) 適性・能力・就職条件など、学生とガイダンスを行いながら個別指導を行っている。
(主な学修成果 (資格・検定等)) 情報検定情報活用試験、ビジネス文書検定、ビジネス能力検定、サービス接遇検定、簿記検定、リテラマーケティング検定、ITパスポート検定、WORD 検定、EXCEL 検定、ACCESS 検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
48 人	1 人	2.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 退学防止会議を定期的実施し、個々の学生状況の把握を行い 2 者面談 3 者面談によりきめ細かい対応を図っている		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	情報ビジネス科 (保健・医療ビジネスコース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,712 単位時間	1,248 単位時間	176 単位時間	688 単位時間	単位時間	単位時間
			2,112 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		33 人	0 人	2 人	7 人	9 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 本校の授業計画 (シラバス) は、教育課程改善委員会 (毎年 10 月、2 月実施: 各分野の学外有識者による業界動向の確認) やカリキュラム編成委員会 (毎年 11 月実施: 各関連業界の動向を踏まえた上で本校教育理念、教育方針に照らし合わせてカリキュラム編成を行う) 等を通じて検討した方針のもと、学科長と教科担当者が詳細を作成する。シラバスは本校規定に基づき定められた『シラバス作成に関するガイドライン』に準じて共通フォーマットで作成されており、3 月に最終確定し、4 月に学校 HP にて公表している。シラバスには授業科目の基礎情報、担当教員、授業概要、到達目標、授業計画、教材名、成績評価 (成績評価の方法、評価配分の割合)、履修にあたっての留意点等が記載されている

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>学習成果は、①試験・検定、②提出物、③授業態度、④出席状況、⑤外部評価の5項目により判定し、評価点を算出している。各項目の評価割合は、授業の到達目標を勘案して各教科担当者が決定し、シラバスに記載している。</p> <p>成績評価は、評価点に応じて、A評価～E評価の5段階で行われ、A～D評価までを単位認定する。(評価点100～90点:A、89～80点:B、79～70点:C、69～60点:D、59点以下:E)</p> <p>出席率が3分の2未満の者は、評価点に関らず原則として単位修得を認めない。</p> <p>各教科の成績評価(A評価～E評価)に対して(GP)グレードポイント(A=4、B=3、C=2、D=1、E=0)を付与し、成績評価平均点(GPA)を算出する事で、個人ごとにクラス内の相対位置を把握している。</p> <p>GPAの算出方法については『学生の手引き』に記載し全学生に周知している他、学校ホームページにて公開を行っている</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>本校の卒業要件は学則第19条に定められている。また、各学科・コースではディプロマポリシーが定められ、『学生の手引き』に記載し学生に周知する他、学校ホームページでも公開している。ディプロマポリシーは教育課程改善委員会やカリキュラム編成委員会での意見を踏まえ、各学科コースの責任者と教務部課長が原案を作成する。この原案を基に理事長、校長、副校長、教務部課長が最終的なディプロマポリシーを策定している。</p> <p>卒業認定のプロセスは、学年末試験後に行われる成績会議において卒業要件を満たしている者に対し、最終認定を校長が行う事としている。</p> <p>卒業認定方針については、学生の手引きに記載し学生に周知している。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況についての個別ガイダンスおよび教員間の情報共有 ・医療系検定に向けた教科間で連携した対策授業 ・実習前の「病院研究」および実習後の評価のフィードバックによる個別指導

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
22人 (100%)	1人 (4.5%)	19人 (86.4%)	2人 (9.1%)
(主な就職、業界等)			
病院、診療所、調剤薬局など			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> ・業界セミナーなどの講演会を実施し、就職への意識付けを実施 ・志望動機や自己PRなどの書き方指導、内容についての相談、添削を実施 ・面接での答え方についてのアドバイス、模擬面接の実施 			
(主な学修成果(資格・検定等))			
診療報酬請求事務能力認定試験(医科)、医療事務技能審査試験(医科)、医療秘書検定、調剤事務管理士技能認定試験、歯科医療事務管理士技能認定試験、ホスピタルコンシェルジュ検定、医事コンピュータ技能認定試験、電子カルテ実技試験、医師事務作業補助技能認定試験、サテイクアイWord検定、Excel検定、ビジネス文書、サービス接客検定			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41 人	3 人	7.3%
(中途退学の主な理由) 修学意欲低下、心神耗弱、疾患		
(中退防止・中退者支援のための取組) 退学防止会議を定期的実施し、個々の学生状況の把握を行い 2 者面談 3 者面談によりきめ細かい対応を図っている		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務 専門課程	国際 IT ビジネス科 (国際 IT ビジネスコース)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	800 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		0 人	0 人	0 人	0 人	0 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 本校の授業計画 (シラバス) は、教育課程改善委員会 (毎年 10 月、2 月実施：各分野の学外有識者による業界動向の確認) やカリキュラム編成委員会 (毎年 11 月実施：各関連業界の動向を踏まえた上で本校教育理念、教育方針に照らし合わせてカリキュラム編成を行う) 等を通じて検討した方針のもと、学科長と教科担当者が詳細を作成する。シラバスは本校規定に基づき定められた『シラバス作成に関するガイドライン』に準じて共通フォーマットで作成されており、3 月に最終確定し、4 月に学校 HP にて公表している。シラバスには授業科目の基礎情報、担当教員、授業概要、到達目標、授業計画、教材名、成績評価 (成績評価の方法、評価配分の割合)、履修にあたっての留意点等が記載されている
成績評価の基準・方法
(概要) 学習成果は、①試験・検定、②提出物、③授業態度、④出席状況、⑤外部評価の 5 項目により判定し、評価点を算出している。各項目の評価割合は、授業の到達目標を勘案して各教科担当者が決定し、シラバスに記載している。 成績評価は、評価点に応じて、A 評価～E 評価の 5 段階で行われ、A～D 評価までを単位認定する。(評価点 100～90 点：A、89～80 点：B、79～70 点：C、69～60 点：D、59 点以下：E) 出席率が 3 分の 2 未満の者は、評価点に関らず原則として単位修得を認めない。 各教科の成績評価 (A 評価～E 評価) に対して (GP) グレードポイント (A=4、B=3、C=2、D=1、E=0) を付与し、成績評価平均点 (GPA) を算出する事で、個人ごとにクラス内の相対位置を把握している。

GPAの算出方法については『学生の手引き』に記載し全学生に周知している他、学校ホームページにて公開を行っている

卒業・進級の認定基準

(概要)
 本校の卒業要件は学則第19条に定められている。また、各学科・コースではディプロマポリシーが定められ、『学生の手引き』に記載し学生に周知する他、学校ホームページでも公開している。ディプロマポリシーは教育課程改善委員会やカリキュラム編成委員会での意見を踏まえ、各学科コースの責任者と教務部課長が原案を作成する。この原案を基に理事長、校長、副校長、教務部課長が最終的なディプロマポリシーを策定している。卒業認定のプロセスは、学年末試験後に行われる成績会議において卒業要件を満たしている者に対し、最終認定を校長が行う事としている。卒業認定方針については、学生の手引きに記載し学生に周知している。

学修支援等

(概要)
 ・担任、副担任、教科担当など学生に関する教員で学生の変化はないか情報交換を行い学生の状況に合わせて指導や、個別相談に対応している。
 ・日本語能力向上を目的に日本人学生との交流や日本文化体験等を実施している。
 ・日本語能力試験(JLPT)合格のための対策授業や模擬試験を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5人 (100%)	3人 (60%)	0人 (0%)	2人 (40%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) ・就職部留学生担当の個別指導を実施している。			
(主な学修成果(資格・検定等)) ・日本語能力試験(JLPT)、WOAD検定、EXCEL検定及び外国人による日本語スピーチコンテスト参加			
(備考) (任意記載事項) R4年度募集停止の為、学生及び教員無し			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
5人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 退学防止会議を定期的実施し、個々の学生状況の把握を行い2者面談3者面談によりきめ細かい対応を図っている		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		教育・社会福祉専門課程	福祉保育科 (幼児保育コース)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,512 単位時間	1,096 単位時間	240 単位時間	800 単位時間		
			2,136 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
45人		16人	0人	4人	10人	14人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 本校の授業計画 (シラバス) は、教育課程改善委員会 (毎年 10 月、2 月実施：各分野の学外有識者による業界動向の確認) やカリキュラム編成委員会 (毎年 11 月実施：各関連業界の動向を踏まえた上で本校教育理念、教育方針に照らし合わせてカリキュラム編成を行う) 等を通じて検討した方針のもと、学科長と教科担当者が詳細を作成する。シラバスは本校規定に基づき定められた『シラバス作成に関するガイドライン』に準じて共通フォーマットで作成されており、3 月に最終確定し、4 月に学校 HP にて公表している。シラバスには授業科目の基礎情報、担当教員、授業概要、到達目標、授業計画、教材名、成績評価 (成績評価の方法、評価配分の割合)、履修にあたっての留意点等が記載されている	
成績評価の基準・方法	
(概要) 学習成果は、①試験・検定、②提出物、③授業態度、④出席状況、⑤外部評価の 5 項目により判定し、評価点を算出している。各項目の評価割合は、授業の到達目標を勘案して各教科担当者が決定し、シラバスに記載している。 成績評価は、評価点に応じて、A 評価～E 評価の 5 段階で行われ、A～D 評価までを単位認定する。(評価点 100～90 点：A、89～80 点：B、79～70 点：C、69～60 点：D、59 点以下：E) 出席率が 3 分の 2 未満の者は、評価点に関らず原則として単位修得を認めない。 各教科の成績評価 (A 評価～E 評価) に対して (GP) グレードポイント (A=4、B=3、C=2、D=1、E=0) を付与し、成績評価平均点 (GPA) を算出する事で、個人ごとにクラス内の相対位置を把握している。 GPA の算出方法については『学生の手引き』に記載し全学生に周知している他、学校ホームページにて公開を行っている	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 本校の卒業要件は学則第 19 条に定められている。また、各学科・コースではディプロマポリシーが定められ、『学生の手引き』に記載し学生に周知する他、学校ホームページでも公開している。ディプロマポリシーは教育課程改善委員会やカリキュラム編成委員会での意見を踏まえ、各学科コースの責任者と教務部課長が原案を作成する。この原案を基に理事長、校長、副校長、教務部課長が最終的なディプロマポリシーを策定している。卒業認定のプロセスは、学年末試験後に行われる成績会議において卒業要件を満たしている者に対し、最終認定を校長が行う事としている。	

卒業認定方針については、学生の手引きに記載し学生に周知している。

学修支援等
(概要)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者になるべく知識、技術、資質、メンタル面の強化指導。 ・ 実習事前指導は、指導案を個別に添削し繰り返し指導を行っている。 ・ 保育教職実践演習では、一人一人模擬授業を行い、振り返りと助言を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	0人 (0%)	7人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
保育園、幼稚園、認定こども園、児童養護施設、障がい者支援施設など			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 面接試験対策…担任、副担任による模擬面接指導。 ・ 実技試験対策…声楽、器楽担当教員による「弾き歌い」の個別指導。 ・ 作文、小論文対策…課題を設定し添削指導。保育士模擬試験の実施。 			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、社会福祉主事（任用）資格、幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導者資格、サティファイ Word 検定3級、Excel 検定3級、J 検情報活用3級、介護職員初任者資格、幼児体育指導者検定など			
(備考)（任意記載事項）			
R4 年度募集停止の為、在籍は2、3年生のみ			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
退学防止会議を定期的実施し、個々の学生状況の把握を行い2者面談3者面談によりきめ細かい対応を図っている		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
AI システム科 (AI エンジニアコース)	150,000 円	480,000 円	484,722 円	施設設備費・維持費・教材費
情報システム科 (システム開発コース)	150,000 円	480,000 円	484,579 円	施設設備費・維持費・教材費
情報システム科 (ゲームクリエイターコース)	150,000 円	480,000 円	484,630 円	施設設備費・維持費・教材費
情報システム科 (プロダクトデザイナー・ CAD コース)	150,000 円	480,000 円	484,949 円	施設設備費・維持費・教材費
情報システム科 (ビジュアルデザイナーコース)	150,000 円	480,000 円	484,918 円	施設設備費・維持費・教材費
IT 総合研究科 (IT 総合研究コース)	150,000 円	480,000 円	474,666 円	施設設備費・維持費・教材費
情報ビジネス科 (情報ビジネスコース)	150,000 円	480,000 円	474,981 円	施設設備費・維持費・教材費
情報ビジネス科 (保健・医療ビジネス コース)	150,000 円	480,000 円	474,593 円	施設設備費・維持費・教材費
国際 IT ビジネス科 (国際 IT ビジネス コース)	150,000 円	300,000 円	399,600 円	施設設備費・維持費・教材費
福祉保育科 (幼児保育コース)	150,000 円	480,000 円	284,856 円	施設設備費・維持費・教材費
修学支援 (任意記載事項)				
学校独自の奨学金制度 奨学生制度：月額 2 万円を入学月から卒業月まで給付 特待生制度：入学金 15 万円を免除				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.arsnet.ac.jp/school/information.html
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 本校で実施した自己点検・評価結果に対して、企業関係者 (5 名)、教育関係者 (1 名)、地域代表者 (1 名)、保護者代表 (1 名)、卒業生代表 (1 名) で構成される学校関係者評価委員会 (定数 9 名) で内容を協議する。協議する項目はその年度の重点目標の他、教育理念・目的・育成人材像、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生募集と受入れ、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献となっている。本校の学校運営についてそれぞれの立場から発言いただき、前向きな姿勢のもと、本校の教育活動がより良くなるための協議を行う。評価結果の活用については、教育活動および学校運営の向上を図るため、理事長より各部署へ評価結果を活用し次年度計画の中で改善を行うよう指示することになっている。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
熊谷商工会議所	2021年8/1～2023年3/31	企業関係者
医療法人 くぼじまクリニック	2021年8/1～2023年3/31	企業関係者
学校法人熊谷ルンビニー学園 摩耶幼稚園	2021年8/1～2023年3/31	企業関係者
株式会社テクニカル・ソリューション	2021年8/1～2023年3/31	企業関係者
株式会社明幸フォーラム	2021年8/1～2023年3/31	企業関係者
元 深谷市教育長	2021年8/1～2023年3/31	教育関係者
一般社団法人さいしんコラボ産学官	2021年8/1～2023年3/31	地域代表
在校生保護者代表	2021年8/1～2023年3/31	保護者
卒業生代表	2021年8/1～2023年3/31	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.arsnet.ac.jp/school/information.html		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.arsnet.ac.jp/school/information.html
--